

8月3日(水)伊予市保健センターで、JAえひめ中央太陽市野菜ソムリエ津川小百合さんを講師にお迎えし、市内の参加希望親子を対象に、栄養バランスに関する講話や旬の野菜を使った調理実習に挑戦する子育て講座を行いました。

講話「カラフル野菜で体革命」では、様々な食品の絵を3色(赤：体をつくる食品、黄：熱や力のもととなる食品、緑：体の調子を整える食品)に分類しました。ブラックボックスを使った野菜当てクイズでは、夏野菜を触感だけで言い当て、それぞれの働きを楽しく学びました。「食べるの話」の紙芝居は、偏食や食べ過ぎ、早食いの弊害を分かりやすく教えてくれました。津川さんから保護者へのお願いとして、「子どもと一緒に食卓を囲んで欲しい。ともに食事をすることで、子どもの一日のできごとを聞くことができる。親の生活を知らせることができる。食事は子どもの生きる力の基礎です。」とお話がありました。



「野菜を使った料理に挑戦」では、カラフルな旬の野菜をたっぷり使った調理をしました。子どもたちは、包丁さばきも見事で、ピザ風なすの細かいトッピングにも丁寧に取り組んでいました。こんなに生き生きと取り組んでいる子どもの姿を見れば、きっと親子で料理をする時間も増えることでしょう。「ともに食べる」「ともに作る」食事の意義を学んだ有意義な時間となりました。

なかむら保育所での学習会

子どもが輝く子育て 6月4日(土)

- 親子の関わりが大切で、物を介して関係を作る三項関係(親・子・物)の確立。共有・共感の世界をつくること。
- 愛着形成が大切である。6ヶ月ころから1歳半に形成される。子どもからの訴えに、必ず親が一貫した態度で応じることで親子関係が形成される。
- 親子関係が築かれると、お母さんから離れて遊びに行くことができる。そうすると、様々なことを理解しようとする脳の動きにいい影響がある。
- 脳への刺激として、話しかける・微笑む・触る・ほめる・見つめるなどが有効で、考える脳ができていく。また、スキンシップを多く取り入れることで、脳の動きが機能し、安心感や自己肯定感につながる。



抱きしめること、触れること、褒めることなど、分かっていても意識して関わっていなかった。子どもと一緒に過ごす時間は少ないが、子どもに対する「愛」を表現しようと思った。

毎日バタバタして、日ごろ考えることはなかったが、みんなと話ができて、納得することもあり、勉強になった。子育てって大変だけど、楽しみながら毎日過ごしていきたい。

参加者は、日々の悩みを打ち明けられたことがよかったようです。互いに悩みながらの子育てをしていることや、子育てグループの助言を受けたことで、子育ての方針や楽しみ方を見つけることができたと願っています。



スタッフ

氏名	備考	氏名	備考
井手窪 理	元教員	平岡真由美	元教員
橋本 千春	読み語り隊代表	竹内 悦子	元教員
森田 和恵	ボランティアグループスタッフ	井上 恵子	放課後子ども教室教育活動推進員
向井三枝子	元幼稚園教員	日山 一正	郡中地区公民館長
中岡 典子	元教員	西川 重子	伊予市福祉部長
上本 昌幸	サポートグループリーダー	武田 廣香	伊予市教育委員会 指導員
玉生 森弘	元愛護班顧問	岡本 香澄	伊予市教育委員会 相談員
田中 幸子	元教員	西岡 美加	伊予市教育委員会



ほのほの

第19号



子育てがんばっています!

毎日、にぎやかな濱田家6人。
真面目でしっかり者の長女と、おちゃめで甘え上手な次女。
2人ともおしゃべりが大すぎ。口を開けば、「ママ、聞いてー!!」
2人のマシガントークは、正直なところ、うるさいなあ…と少し思う事もあるけど
じーじ、ばーば、パパの存在がママの子育ての助けになってて、日々の家族に感謝です。
これからも家族みんなが元気に仲よく過ごせますように♡

祖父母：濱田重賢、慶子 子ども：真凜、真那
父母：濱田 賢、真由美 (双海町串)

子育て真っ最中の
皆様の応援をします。

伊予市家庭教育・子育てサポートグループ

連絡先 ☎ 982-5155 FAX. 982-5156
〒799-3113 伊予市米湊 768-2

ぐんちゅう保育所での学習会

5つの視点からの子育てについて
お話がありました。 **6月8日(水)**

- ①子どもを笑顔にするには、「保護者の笑顔と語りかけ」が大切
- ②子どもの成長は、「みんな違ってあたりまえ」他の子どもと比べず、できるようになったことを子どもと一緒に喜ぶことが大切
- ③子どもに自信をもたせるには、「子どもの良いところをたくさん見つけ、それを子どもに伝えること」が、自信につながる。
- ④子どもは実体験をすることで、「感じたことに心を動かされ、成長していく」
- ⑤「10秒の愛」で、毎日10秒だけでも子どもと真剣に向き合う子育てをしよう。

★「10秒の愛」で、家族の絆を強くしていきましょう。★

「10秒の愛」

子どもって、忙しい時に限って寄ってきます。子どもって、なかなかさっさとできません。子どもって、なかなかはっきり言えません。でもたった10秒でいいのです。まず子どもを抱きしめてあげてください。たった10秒でいいのです。「早く！」って言う前に待ってあげてください。たった10秒でいいのです。せかさずにじっと聞いてあげてください。すると、そこに「笑顔」が生まれます。そこに「つながり」が生まれます。たかが10秒、されど10秒。「10秒の愛」は子どもを幸せにするのです。
中島正教「西宮市人権教育資料」より



「10秒の愛」で自分たちはどんなことをしているかなどを話し合うことで、日ごろの子育てを見つめ直す良いきっかけとなった。「だっこする」「待つ」「話を聞いてあげる」「我慢する」など、子どもとの向き合い方は、色々あることを知り、よかった。



仕事と子育てでへこむこともあるが、今日の話で何とか頑張れそうだった。



大平地区「子どもを語る座談会」



7月4日(月)大平地区公民館で、「子どもを語る座談会」が開催されました。講師には、新田高等学校教頭、柔道部師範でもある浅見三喜夫さんをお迎えしました。48kg級元世界チャンピオンである浅見八瑠奈さんの父親で、浅見選手をはじめ、中矢力選手などトップ選手を育成してきた指導者の講演とあって、会場には大勢の住民が集まりました。浅見さんは、生徒のエピソードを交えながら、ユーモアたっぷりに話されました。「柔道を通して心豊かな人間を育てる」という揺るぎない信念と、実践から会得された自信と、生徒に対する限りない愛情がひしひしと伝わり、子どもの主体性を重んじるばかりに「教える」ことを躊躇しがちな現代に一石を投じるお話をしていただきました。

グループ懇談では、
「すぐ子どもに妥協してしまう自分の子育ては、甘かったなと反省している」
「子どもが失敗しないようにと、行動を制限していた」
「我が子が言うことだけが常に正しいと思い込んでいた。子どもを冷静に見られる親になりたい」
「大切なことは、ぶれずに伝え続ける」

等の意見が出され、子育てについての疑問や悩みを話し合いました。



柔道を通して心豊かな人間に育てる

～社会に貢献する健全有為な人材の育成～

- ① 親としての思い
 - 親の役割は、厳しい実社会の中で生きていく力をできるだけ早くつけてやること。愛情には厳しさが要。
 - 「我が子に限って」が、最も危険。親は、木の上に立って見る人(俯瞰的)であって欲しい。同じ目線だと失敗する。
 - 兄弟姉妹仲が良いのが幸せ。親よりも同じ時代を長く生きるから。
- ② 指導者としての思い
 - 「こうしろ」と、力でねじ伏せるよりも、何故かを理解させた方が効果的。
 - 「才能とは、努力を継続できる力」センスは親から授かったものだが、才能は皆にある。できるまでやる才能を持った者が、センスを超える。
 - 型にははめれないが、最低ラインは決める。型にはめたら人間が小さくなる。片目をつぶったり薄目をしたりする時も必要である。

③ 人としての成長

- プラス思考が大切。やる前から心配しない。後悔ではなく、これからのための反省をする。
- 公私混同せず、公を優先させる。
- 自分で壁を作らない。自分で作った壁は絶対に破れない。
- 自他ともに認める努力は普通。他は認めても自は認めない者が結果を残す。
- 生徒(子ども)のために行った行為に対しては、決して見返りを求めない。

おわりに

子どもは、大人(親・指導者)をよく観察しています。大人が本気になれば、子どもも本気になります。子どもたちの健全育成を願うならば、私たちが手本とならなくてはなりません。

中山保育所での学習会

子育てって楽しいよ **6月8日(水)**

- 1 子どもの育つ道すじを知りましょう。
- 2 子育てについて困ったら、相談しましょう。
- 3 子育て仲間を広げましょう。

※子どもは日々成長し、変化します。つらいこともあつという間に通り過ぎてしまいます。ママの笑顔は子どもにとって一番の宝物であり、心の栄養です。笑顔で子育てを楽しみましょう。



おおひら保育所での学習会

6月15日(水)、元松前町立小富士保育所所長の宮川忍さんを講師にお迎えし、月齢、年齢ごとの子どもの成長と接し方、かわり方について、お話いただきました。

参加者より

働きながらの子育てに対して「親が不安になるのが一番ダメ。自信をもてば、子どもも分かる」と言われた言葉が、忘れられません。働くママには、とても励まされる言葉でした。

子どもの成長を比べてしまいましたが、あらためて、一人一人違うということを再確認しました。

子育て悩み相談

「大人の話を受けない子ども」

3歳児では、イヤイヤ時期があります。それは、発達上とても大切で、大人を試している時期です。そんな時は、正しい判断を教えるいいチャンスなので、しっかり説明して、考える力をつけていきましょう。

問題は5歳以上です。片付けなさい! 準備をなさい! 宿題をなさい! などなど、聞く耳をもたないことがあります。

原因は?

- ・ 指示がたくさんある
- ・ 子どもは何をすればいいかわからない
- ・ 混乱している

方法は?

- ・ 1つ1つ指示を出す
- ・ 一緒にしながら、やり方を教える
- ・ 抽象的な言葉は分かりにくいので、具体的に話す

そして、

子どもが少しでもできたら、褒める褒められると、次も頑張ろうとする

親子関係の中で、褒められることが続くと、子どもは頑張ろうとしてくれます。そのためには、大人は子どもができるように働きかけることです。そうすれば、子どもは実行してくれて、褒めることもできます。褒めるとうまくいくことがいっぱいあります。

親子で折って遊ぼう

6月24日(金)子育て支援センターで、折り紙教室を開催しました。
○つまようじで回る風車 ○指人形で遊べる動物たち、ちょうちょ、魚 ○コマ ○立体的な紫陽花などを作りました。



参加者より

講習会の後さっそく5才の息子とコマを作ってみました。ちょっとむずかしいところもありましたがどうにかコマになり、実際に回しても遊べました。楽しかったのでまた子どもと一緒に折り紙をしたいと思えます。